

この命を大切に 森野花音

家の中の片付けをしていたときに、私は1冊の本を見つけました。それは、小学2年生のときに、授業で作った、自分が生まれてきたときのことをまとめた本でした。なつかしいな、と思う一方、どんなことを書いていたのか、あまり覚えていませんでした。その本を開いてみると、生まれた日のことや、当時の写真などがあり、こんな感じだったのかと照れくさくなりました。そして、次のページを開くと、そこには、私が生まれてきたときの『家族の思い』が並んでいました。

私の家族は、父・母・兄・そして祖父母がいます。そんな家族全員から、「無事に生まれてきて、何より嬉しかった。」
「かわいいなと思った。」などの心からの祝福の言葉であふれていました。そして、私の「花音」という名前の由来も書かれていました。

花と音と書いて、「花音」。私の名前には、「花や音楽のようにたくさんの人から愛される優しい人に育てほしい。」という願いが込められているそうです。私は、本当に周りの人に愛されて、大切にされて生まれてきたのだと思いました。自分のためにつけてくれた「花音」という名前をこれからも大事にしたいと改めて思いました。

また、母からは、私がおなかの中にいたときのこともききました。生まれてくる子にアレルギーがあっては困るだろうからと考え、母が妊娠中に卵を一切食べないようにしていたという話を聞いたときは、驚きました。しかし、それ以上に衝撃を受けたことがあります。

「実は、花音がおなかにいた時の検査で、子宮がんが見つかったんだよ。」
と、母が言いました。私はその言葉を聞いたとき、本当にびっくりしたし、それは私が原因だったのではないかと不安になりました。でも、母は、こう言います。

「もし、花音がいてくれなかったら、検査をすることがなかったと思うわ。そしたら、がんが見つからず、私の命も危なかったかもしれへんわ。」

子宮がんの手術は、私が生まれてからしたそうです。もし、私が母ならば、どうしていたでしょうか。がんはとても怖いものなのに、手術の時期を私のために遅らせてくれたということに、すごく感動しました。その選択をしてくれた母に、感謝したいです。

母は、
「花音がいてくれてよかった。」
と言ってくれます。私も、母や父、兄、祖父母、そして周りの人がいてくれて、本当によかったと思います。みんなからいただいたこの命を大切にしなければなりません。私が成長するために、私のことを支えてくださる人は、たくさんいるということに、本を開いてふたたび気づくことができました。

私は、強く思います。どんなに悲しいことがあっても、みんなからいただいた命を捨てないということ。家族や周りの人のことをもっと大切にしていこうと思います。

私だけではなく、世界中の人々が周りの人たちに助けられて生きています。自分自身を見つめ直し、周りの人たちに感謝することが大切だと思います。そして、私も誰かを助けたり、支えたりできるようにしたいです。

この命を大切に、助け合いが出来るように、ともに頑張りましょう。